

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 別府 開催概要

〔開催日：令和 7 年 10 月 21 日（火）〕

〔学校訪問〕 別府市立山の手小学校

〔訪問者〕 大分県教育委員会（山田教育長、教育委員、教育次長 他）
別府市教育委員会（寺岡教育長、教育委員 他）

1. 概要説明

山の手小学校は、学校の教育目標に「ふるさと別府に学び、協働して未来を開く子どもの育成」を掲げ、問題解決能力とコミュニケーション能力の育成に重点を置き、PDCA サイクルに基づいた組織的な学校運営を心掛けている。今年度は、「書く力」を軸とした学力向上、3 部門連携による児童支援体制の強化、家庭との連携による生活習慣の改善など、具体的な数値目標と達成状況を明確にした組織的な取組を推進している。



山の手小 川原校長

2. 授業参観

各学年 1 学級計 6 学級の授業を参観。「読書活動優秀実践校」表彰の実践を支える図書室も併せて公開。



6 年 2 組 道徳の様子



1 年 3 組 算数の様子



図書室見学の様子

学校側から「図書館司書による図書館祭りや季節の飾り付け、プラス 1 券、読書通帳等の工夫により、来館児童数や貸し出し冊数の増加が見られた」との説明がなされた。

3. 意見交換（主な意見等）

- ・学校全体として静かで落ち着いた授業態度が見られ感動した。
- ・規律と主体性のバランスが全教室で取れていた。
- ・全体的に落ち着いた態度。このような指導は市全体で統一して行われているのか。
⇒市全体として落ち着かない時期を経て、指導の統一を目指してきた。（寺岡教育長）
 - ・「聴くこと」を中心に置いた学校経営、ティーチングのみではなくコーチング型の授業、子どもの意見を聞き、子どもたちと授業をつくる主体的・対話的な学びの重視等。まだ課題は見られるが、確実に成果を挙げていると認識している。
 - ・各学校の実態に応じた柔軟な取組が進められている。
- ・児童が iPad を使いこなしている姿に時代の変革を実感した。
- ・iPad と板書、児童の発言、教師の指導がバランスよく組み合わされていた。
- ・学校が抱える課題とその対応策について質問。
⇒学校に来られない、学びに向かえない児童への対応が課題である。（川原校長）
 - ・市全体で週当たり授業数を 1 コマ削減し、家庭訪問等対応の時間を確保している。
 - ・市の導入した保護者連絡 ICT ツールを活用し、勤務時間内の対応を工夫している。



県教育委員



別府市 寺岡教育長

〔意見交換会テーマ〕「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～学力向上に向けた組織的な取組について～

〔出席者〕 学校訪問参加者

1. 別府市の取組説明

（１）学力・学習状況

県・全国の学力調査の結果について概要を説明。組織的な取組推進により一定の成果を収めているが、課題のある学年や教科も見られる。基礎学力に加え、活用型の学力を育みたい。また、教科の愛好度、理解度の結果からも、校内研究、教科部会等の充実を図ることで更なる授業改善が必要である。第3期別府市教育大綱の理念のもと、確かな学力の育成に向け、若手教員育成を含め組織的な学力向上の取組を進めていきたい。



宮川学校教育課長

（２）ICT 活用状況

児童生徒の ICT 活用頻度は、「週3回以上」が小学校で8割、中学校で9割と進んできている。また、ICTによる興味関心の高まり、理解の深まりでは約9割が肯定的にとらえているものの、授業の核心部分での活用が進んでいないことが課題であり、端末活用によるトラブル増を踏まえ、更なる利活用に向けての環境及び体制を整えることが必要と捉えている。

2. 意見交換（主な意見）

- ・主体的・対話的な学びに偏りすぎず、知識の土台を固める必要性が示唆された。主体的・対話的な学びの実現には「教師が教えるべきところはしっかり教える。子どもに考えさせるところはじっくり考えさせる」というメリハリが不可欠である。
- ・学力調査の点数だけでなく、「勉強が好き・分かる」を重視して欲しい。
- ・教員が「学校に行くのが楽しい」と思える環境づくりが子どもの学びの質を高めるための最優先事項ではないか。
- ・学校教育でしか得られない運動会等集団での成長体験の価値を再認識した。
- ・「勉強ができる」教員の視点だけではなく、つまづく子どもの視点で教育を考えることも重要。
- ・ICTで全員の意見を瞬時に共有できる良さや困っている子へ情報提供できることの可能性を感じた。
- ・英語は技能教科の側面も持つ。ICTを活用し、話す・聞く活動の充実を図り、コミュニケーション力の向上を目指して欲しい。
- ・特別支援教育の進んだ学校は通常の教育も光っている。支援を要する子たちが輝ける授業を期待する。



別府市小・中学校長



別府市教育委員

3. 山田県教育長から

外国にルーツを持つ児童生徒が多く在籍している、APUへの留学生が地域で共生しているという強みを生かし、別府市が英語教育の先進モデルを示してくれることを期待している。大分県教委として、しっかりとその後押しをしていきたい。



県 山田教育長